



へたでいい会 Yさん絵手紙

無病息災！ 笑顔あふれる日々を！
謹んで新春のお喜びを申しあげます。
昨年はコロナ禍のなかでさまざまな制約を受けた一年でもありましたが、地域の皆様方のご協力、ご支援のおかげで地区社協の事業も順調に進めることができました。本年も地域福祉の向上を目指し、いきいきサロン等のふれあい事業を推進してまいります。

今年こそ皆様方にとりまして健康で笑顔あふれる年となりますように心から祈念申しあげ新年のご挨拶いたします。



森山地区社会福祉協議会
会長 山口公徳

新年のごあいさつ

第18回森山地区老人福祉大会に集う

～住み慣れた森山の歴史を振り返り 干拓の歩みをたどる～

第18回森山地区老人福祉大会が令和4年12月2日、森山公民館で開催されました。森山地区老人クラブ連合会は8クラブ、215人が加入されていますが、今回の参加者は約80人。例年、老人福祉大会はスポーツ大会として開催されていましたが、高齢化が進み体力的に運動競技は厳しいことから、令和3年度から文化講演会として開催されています。



森山地区老人福祉大会

今回は、第1部は諫早警察署生活安全課の長尾係長を講師として「ニセ電話詐欺に遭わないために」として研修を受けました。長尾係長は、事例を交えて詐欺に遭わない日頃の電話対応を強調され、参加者は「他人ごとではない」と真剣に耳を傾けていました。

また、第2部は森山地区社会福祉協議会山口公徳会長が「ほんに森山よかところ パートII」のテーマで、住み慣れた森山を再発見する観点からスライドを使って森山の干拓の歴史について講演しました。森山は干拓でできた町であることや知られざる歴史の一幕を再認識されたひとときでした。

【ほんに森山よかところII 主な講演内容】

1. 諫早平野干拓小史
2. 森山干拓小史
3. 干拓の歴史は灌漑用水との闘いの歴史
森山の溜池、杉谷溜池物語
4. 森山のこぼれ話
5. 森山人物伝II 阿修羅 原ほか

残しておきたい森山の記録・あの日あの頃 ～森山村役場・森山町役場、そして諫早市森山支所へ～

1900年(明治22年)、町村制の実施に伴い誕生した森山村は、134年の年月を重ねて森山町から諫早市森山町として現在に至っています。この間、行政の中心である庁舎の今昔を紹介いたします。当時の写真は、「森山町閉庁記念写真集」(平成17年)から転載。

《森山村・町役場庁舎所在地の変遷》

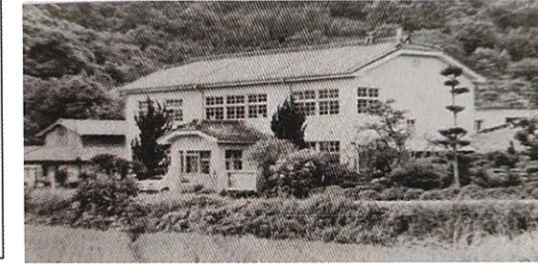
明治22年	森山慶師野名字万灯	昭和31年	森山慶師野名城下
明治26年	井牟田下名 鳥島小学校内	昭和50年	森山本村名(現在地)
明治36年	森山慶師野名(長走入口付近)	平成17年	合併により諫早市森山支所となる

明治36年～
昭和初期
木造建築で慶師野
長走入口付近

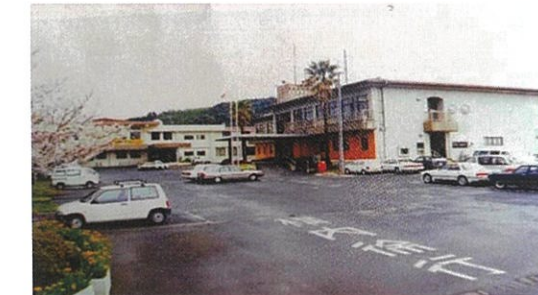
左：当時の庁舎
右：現在(跡地)



昭和31年～
昭和50年
旧軍用格納庫古材で
建設
昭和46年町制移行。



昭和50年9月～
現在
隣接して森山公民館、森山老人福祉センターも開設
平成17年
諫早市森山支所



「寄付ありがとうございました」

左記の方々からご厚意による寄付金をいただきました。

寄付金は、自治会福祉活動助成等、森山地域の福祉事業に大切に使用させていただきます。

令和4年10月1日～12月31日受付

《香典返し》

- ◎田 尻 陣野一好様 【亡妻 ハルエ様】
- ◎田 尻 釜元孝幸様 【亡母 テルエ様】
- ◎下井牟田 土井テルミ様 【亡夫 直治様】
- ◎下井牟田 中村チエ子様 【亡夫 武様】
- ◎下井牟田 釜崎博文様 【亡母 峯 二枝様】

《お知らせ》

○ひとり暮らし高齢者への食事サービスは、2月19日(日)に行います。新型コロナウイルス感染症の状況により中止の可能性もあります。

森山中学校を卒業してから71年目、24回目の同窓会が開催される ～最後の同窓会と銘打って開いたが、また集まろうとの声～

1951年（昭和26年）3月森山中学校を巣立った少年少女が、87歳の齢（よわい）にして24回目の同窓会を森山老人福祉センターで開きました。令和4年12月9日、卒業から71年目の同窓会に出席した仲間は、再会すると中学校時代に瞬時にタイムスリップして若かりし日々や現況を語り合い時間を忘れました。

今回は、コロナ禍で開催できなかった2年を経て、事務局の神尾信之さんが発起して参加を呼びかけ同窓生が集まったもの。事務局には、同窓会名簿や24回の同窓会記録が整備されてあるのも驚きで、同窓会の歩みが良くわかります。

当時の卒業生総数は193名、東小学校、西小学校の校舎を借りて分散授業が行われていました。その後、森山中学校は、昭和27年に統合されて現在地の校舎で授業を受けることになりました。



森山中学校第4回卒業の皆さん

中学校時代の思い出は、熊本・阿蘇への修学旅行で



麓の温泉から阿蘇山へ歩いて登ったことや中山武人先生の引率で雲仙白雲の池でキャンプをしたことなどを語ってくださいました。

神尾さんは「同窓生は全国各地に散らばった。年々鬼籍に入る仲間が増えてきたが、なんとか開催できて嬉しい」と目を細めていました。同窓会で印象に残るのは、太宰府の九州国立博物館見学や西海市の大島造船所見学。

また、同窓生一同から事務局の神尾様夫妻に感謝状が贈呈されたエピソードもありました。

参加者は高齢になりましたが、健康に留意して、いつまでも同窓生との絆を深めていただきたいものです。

手づくりランタンに挑戦しました

～小原木曜会サロン(唐比)の皆さんが、童心にかえて可愛いランタンづくり～

手づくりランタンに挑戦したのは小原木曜会サロン（唐比）の皆さん。ランタンは、内部にLED電気を据えて、ほんのりと温かい灯で周りを照らしてくれます。童心にかえて思い思いのランタンづくりを楽しみました。

同サロンは、毎月2回木曜日に小原公民館に集まり、さまざまな活動を行っています。昨年は、ニセ電話詐欺防止や介護予防の講話を聴いたり、ものづくりなどに取り組みました。代表の上野いく子さんは、「みんなで、無理なく楽しく過ごすのがサロン、気兼ねなく集まるのが木曜会の良かところ」と語ってくれました。お近くの皆さん、サロンをのぞいてみませんか。



小原木曜会サロンの皆さん

なお、コロナ感染拡大防止のためサロン代表者会議の開催ができませんでしたが、活動や講話等のご相談は森山地区社協にお気軽にどうぞ。

ひとり暮らしの高齢者へ森山の餅を贈りました

森山地区社協は、年末恒例のひとり暮らし高齢者につきたての餅を届けました。12月18日（日）、早朝から慶師野公民館に集合したのは自治会長、民生・児童委員、福祉協力員、地区社協役員など総勢30人。この日ついた餅は約100kg、180人に民生・児童委員の皆さんが声掛けをしながらメッセージを添えて一人ひとりに手渡しました。民生・児童委員との触れあいもあり、つきたての餅ひとつで人の心のぬくもりが伝わることを実感できた1日でした。



「やわらかい餅を届けたい」

民生・児童委員の皆さんは、今年は「寄り添う」を合言葉に地域の福祉に取り組む決意です。



良いお年をお迎えください

《届いたお礼の言葉から》

- 「今年は餅をいつ持って来てくいらすか、待とったとヨ」
- 「これで良か正月の来らすバイ」
- 「お餅は、まず仏壇の母ちゃんにお供えしてから喰うたよ。ありがとうさん。」

長崎県立諫早東高校の生徒さんは、社会貢献活動に頑張っています

～今年も森山の高齢者へのプレゼントやニセ電話詐欺防止の取り組み～

県立諫早東高校1年生の皆さんから森山のひとり暮らし高齢者に今年も暖かいプレゼントをいただきました。12月15日、同校校長室で長池一徳校長、岩村教諭が同席されて贈呈式があり、手作りのティッシュカバーを森山地区社協井手副会長へ託されました。今年も、家庭科授業の一環として男女全員で作成されたとのこと。井手副会長は、男子生徒に「慣れない作業で作られたと思います。皆さんのお気持ちを届けます」と感謝の言葉を伝えました。プレゼントは、12月18日、森山のおもち配付と同時に民生児童委員が届けました。なお、プレゼントは、年度ごとに地区順に届けています。



生徒さんから井手副会長へ

また、同校1年生グループは、「総合的な探求の時間」の活動テーマに「ニセ電話詐欺防止」を掲げて啓発チラシを作成。諫早警察署と連携してニセ電話詐欺防止を呼びかけています。10月には、森山老人福祉センターと田尻公民館で集まった高齢者グループに詐欺防止のポイントを訴えました。

ニセ電話詐欺の被害は多発しており、長崎県では令和4年11月末現在106件の認知件数、1億9,700万円の被害（長崎県警察本部）が発生しています。なかでも高齢者を狙うニセ電話詐欺が多く、諫早警察署でも老人クラブやいきいきサロンに注意喚起を強く働きかけています。

諫早東高校生がつくった防犯啓発チラシ

